

巻頭言

コロナ禍を受けての今後の水化学部会のあるべき姿

水化学部会 副部長 久宗 健志（世界原子力発電事業者協会 東京センター）

Coronavirus Disease 2019（COVID-19）の感染が国内外に拡大して1年以上が経過しました。当初、症状・感染の仕組みや対処療法がわからないため、医療関係者を含め大きな混乱となりました。

現状でも適切な治療方法について模索が続いておりますが、感染拡大防止対策として、三密（密集、密接、密閉）を避けるとともに、マスクの着用や手洗いの励行等の新しい生活様式が実践されています。

これらを受けて、社会では在宅勤務の推進とともに Web 会議が広く活用されるようになりました。

日本原子力学会の活動においても、これら COVID-19 感染拡大防止対策を受け、秋の大会、春の年会のオンラインでの開催となっております。

また、水化学部会においても 2020 年の定例研究会およびサマーセミナーは中止することとしました。

同様に 2020 年 9 月にフランスで開催を計画していた NPC2020 は 2021 年秋の開催に延期しており、これに伴い 2021 年に日本で開催を計画していた AWC2021 も 2022 年秋の開催に延期しています。

しかしながら、水化学部会の活動については原子力発電所の水化学に係る共通の課題を産官学の専門家が率直に意見交換する場を提供する必要があることから、運営小委員会で運営方法を議論し、2021 年 3 月開催予定の定例研究会から Web 会議システムで開催することとしました。

また、水化学部会の各作業会についても Web 会議による運営を検討していくこととしました。

対面ではなく Web 会議の場合は、打合せ後の雑談等による情報交換が難しくなりますが、打合せ場所への移動時間が不要となるため会議への参加がこれまでよりも特段に容易となります。

今後 COVID-19 に対するワクチン接種により、感染拡大防止対策はある程度緩和されると考えますが、今回の経験を踏まえ水化学部会では Web 会議による学会活動を推進することにより、誰でも何処でも意見交換ができる環境を整備していきます。